



2年生の生活について

歯学科 2年 鈴木 兼一郎

自分は今年の4月に2年生になりました。前期まだ途中ではありますが、今までの生活を自分なりに振り返ってみたいと思います。1年生での五十嵐での講義を終え、専門科目の講義が始まりました。やっと興味がある講義が始まったと思ったのですが、1年生の時との生活のギャップによりとても忙しく感じています。この生活が普通のはずなのですが1年生の時は聴講している講義が少なかったため暇な時間が多く、自分はその生活に慣れてしまったのだと思います。最近やっとこの環境に慣れてきて、自分なりの生活リズムをつかめています。自分は適応力がないので慣れるのに時間がかかりましたが、他の人はもっと早くにこの環境に慣れていたと思います。自分もやっとこの生活に慣れましたが、これから学んでいくことは歯科医になった時に関わってくることだと思うので、しっかりと自分のものにしていきたいと思えます。

そして、この新しい環境で今、学んでいるのは主に基礎医学というものです。人生20年目にしてやっと国数英理社から離れることができました。このことにとっても嬉しく感じていたのですが、実際に講義を受けてみるとやはり専門科目は難しいです。なかなか覚えられず、大変苦労しています。参考書は今まで使ってきた物の中で一番厚いのではないかとというくらいの厚さがあるものもあります。そのくらい多くのことを学ばなければ良い歯科医師にはなれないのだなと思って今は必死に勉強しています。9月には多くの科目のテストがあるので夏休み期間である8月は遊びすぎないで、勉強を重視し有意義な夏休みを送りたいです。テストが終われば後期の講義が始まるので万全の状態の後期の講義に望みたいと思えます。

次にこれからの後期に向けての生活について書きたいと思います。前期からの反省を挙げると部活との両立ができなかったことと、環境の変化により体調を崩してしまったことです。4月から新しく部活を始めたこともあり、部活を頑張りすぎたかなと思っています。専門科目の勉強には多くの時間を要するので、後期は計画をしっかり立てて部活と勉強を両立したいと思います。また、新潟の気候は変わりやすく特に夏から秋にかけては天候が急激に変わるので体調管理には気をつけたいと思います。前期は体調を崩してしまったので後期こそは気をつけたいです。後期は前期よりも時間に余裕がもてると思うので、自分なりの生活スタイルを確立させ、学んだ知識を定着させたいと思います。

最後に、覚えている人もいるかもしれませんが、自分は去年も1年生の立場でこの記事を書かせてもらいました。1年前は初めて新潟に来て新潟は都会だなと思いましたが、1年経った今でも新潟は都会だと思っています。こういう面では、自分は全く成長してないないつも思ってしまう。毎回こんな自分が歯学部ニュースの原稿を書いてしまって、見ている人には不快を与えてしまっているかもしれませんがそこは我慢していただきたいです。もしかしたらこの先も何か自分の原稿を載せることになるかもしれないからです。今のところ自分は歯学部ニュースに3回ほど読みにくい原稿を載せさせてもらっています。多分この出席率は2年生の中で一番だと思います。おかげで自分は日々の成長を確認しながら生活できていると思います。今後またこのような機会があったら、僕の原稿を見ることになると思いますがよろしくをお願いします。

2 年生日記

口腔生命福祉学科 2 年 江 原 彩 莉

私が歯学部口腔生命福祉学科に入学してから 1 年と半年が経とうとしています。そこで、拙い文章ではありますが、私の今までの大学生活を振り返ろうと思います。

《勉強面》

1 年前期は、まだ大学生活にほとんど慣れていないうちに早期臨床実習があり、最初は緊張の連続で不安に思うことが多々ありました。また、初めての白衣やユニフォームが少し照れくさかったりもしました。でもこの実習を通じて、医療従事者としての責任感や心構えを学ぶことができ、改めてこの学科を選んでよかったと思えるようになりました。また、実際に患者役を経験したり、ブラッシングを体験させてもらえたりと、現場の雰囲気というものを感じることができました。

後期の授業では、人文系の抽選にことごとく落ちてしまいました。人文系は、心理学と法学、社会学と様々あるのですが、心理学は全て落ち、憲法と社会学 1 つがかるうじて受かっただけでした。もし単位を落としてしまった場合、2 年次に旭町から五十嵐まで毎週通うことになってしまうので、落とせないという状況でした。そう考えるとあと 2 単位足りない……。そこで私は泣く泣く教授の部屋を駆けずり回りました。運よく聴講取り消しの枠に滑り込むことができましたが、新たに追加した科目はまたもや社会学。最終的に私は社会学を 6 単位も取る結果になってしまいました。もう社会学マスターと言っても過言ではないでしょう(笑)。

とはいえ、そんな比較的楽な 1 年目だったため、突然忙しくなった今の生活に慌てふためいています。今年からの授業は英語を除き、歯や人体などの専門科目ばかりです。実習では、保健所や特別養護老人ホームなどに見学に行き、実際の現場で活躍する歯科衛生士や社会福祉士を間近に見ることができました。歯科衛生士概論では、さまざまな現場で働く歯科衛生士や社会福祉士の方のお話を聞くことができ、私がイメージしていたものと

は全く違った実態を知ることができました。歯科医と歯科衛生士の仕事はそれぞれが独立していて、ただサポートにまわるだけではないということや、活躍する場所は診療所や病院だけではないことなどを知ることができ、将来の道が広がった気がしました。また、これからの日本での歯科衛生士や社会福祉士の必要性や重要性を知り、これからの勉強や実習などのモチベーションが高まりました。

《部活動・サークル活動》

私は、バドミントン部に所属しています。今まで体育でやっていた程度だったのですが、思い切って大学からバドミントンを始めることに決めました。1 年間続けましたが、まだまだ実力は伴っていません。また、毎年 8 月にはデンタルがあります。去年は大阪で行われました。試合はシングルスもダブルスもともに 1 回戦負けでした。とても悔しく、自分の体力のなさに愕然としました。今年も 8 月に東京で行われます。今年も去年の結果を少しでも越えられるように精進していきたいと思います。

もうひとつ、私は全学のダンスサークル“MIMA”にも所属しています。MIMA はイベントがとても多く、様々なところから踊りの依頼を受けています。去年は比較的授業に余裕があったため多くのイベントに参加させてもらいました。アルビレックス BC の前座で踊ったり、富山の創作ダンスコンクールや新大祭で踊ったりなど……。最大のイベントは 3 月に行われた MIMA LIVE です。MIMA の 1 年間の集大成のこのライブは、今年も震災直後だったため、中止になるか危ぶまれましたが、こういうときこそ行わなきゃ！ と皆合致し、チャリティー公演という形で行いました。結果的に、公演は無事大成功を収めることができました。

本当に時が過ぎるのは早いと感じた 1 年半でした。これからも勉強や部活など何事においても精力的に取り組み、毎日を充実させていけたらと思います。

3 年生日記

口腔生命福祉学科 3 年 黒 崎 麻致子

2 年次は歯科の勉強が大部分でしたが、3 年生になり福祉の学習が始まりました。講義や PBL を通して学んでいますが、新しい分野を一から学ぶということで、探り探り勉強しています。PBL とは、事例に対してグループ内で疑問や問題を見つけ、学習課題を設定し学んでいくものです。図書館やインターネットを活用し自主的に学習するため大変ではありますが、自分たちで学習していくことで理解が深まりますし、一人で学習して分からなかったところもグループで討論することで解決につながることも多いです。討論することで、自分とは違う視点からの疑問や意見、知識を聞けるのでとても勉強になります。

早期援助技術演習では、特別養護老人ホームや新潟ふれ愛プラザ、児童相談所に行き、福祉の現場を見学することができました。まだ知識の浅い私たちですが、講義だけでは分からない、実際の現場の雰囲気や様子を感じることができ、よい刺激になりました。

今まで歯科の勉強が多かったため、福祉の仕事にはあまり目を向けていませんでしたが、3 年生になって福祉を学び始めたことで少し福祉職のイメージがついてきました。医療系と福祉系の 2 つの進路がありますが、歯科・福祉それぞれの実習

で感じた印象を大事にしながら進路を決めていきたいです。

また、私は部活にも力を注いでいます。私は五十嵐のラクロス部に所属し、ほぼ毎日活動しています。ラクロス部の練習時間は朝型で、週 4 日朝 6 時から五十嵐のグラウンドで活動しています。それに加え、ミーティングや試合、他大学との練習会などもあり、平日・休日問わず毎日のようにラクロス部員と顔を合わせます。県内にラクロス部のある大学は少ないため、試合や練習会は東北大学をはじめとする様々な大学との交流が多く、この部活を通して知り合えた友人は少なくありません。県外遠征は大変ですが、このような形で他大学の友人と交流することで、自分の大学・チーム内だけでは分からないことや新しい見方が学べ、刺激をもらっています。3 年生になり学部の授業も増えたため、五十嵐で部活を終えたあとすぐに 1 限のため旭町に向かうという日々です。正直、ハードスケジュールでつらいときもありますが、授業も部活もどちらも頑張りたいので、体力をつけて乗り越えたいです。

日焼けで実習着に似つかわしくない肌の黒さですが、これからの実習や講義をひとつひとつ大切に、有意義な学校生活を送りたいと思います。



4年生だより

口腔生命福祉学科4年 池田早織

私たち口腔生命福祉学科4年生はこの時期何をやっているのか具体的にご存知の方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。今私たちがどんなことをしているのか、またその中で私が感じたことを少し紹介したいと思います。

口腔生命福祉学科では1年生で1年間、五十嵐キャンパスにて教養科目を勉強します。同時に前期には歯学科1年生と一緒に旭町キャンパスで病院での歯科診療の見学や、パソコンの利用の仕方等の大学で学ぶための基礎的な勉強をします。2年生では、歯科に関するPBLを中心とした歯科全般の学習がスタートし、3年生では編入生が新しく仲間に加わり社会福祉士になるためのカリキュラムと、より臨床に近い歯科の勉強や実習を行います。

さていよいよ4年生に進級すると、月曜日から木曜日は病院内で各診療科に分かれて1日実習を行います。金曜日にはPBLや外部講師の先生からの講義等をうけます。12月のはじめまで続き、その期間中に一人もしくは二人で、学外のさまざまな福祉施設へ時期をずらして1ヶ月、実習に行きます。4年生といえば、さらに口腔保健福祉に関する論文形式の報告書の作成、発表、就職活動、二つの国家試験の勉強が待っています。これらはときとして同時進行となります。

福祉現場実習とは、特別養護老人ホーム、知的障害者通所授産施設、身体障害者の方のリハビリセンター、市の児童相談所や知的障害者の施設等に実習へ行きます。施設によって実習の内容は異なりますが、事前に実習先の情報収集、実習志望動機、実習計画書の作成、事前訪問を行い実習に臨むこととなります。わたしはまだ福祉実習には行っていませんが、特別養護老人ホームでは、利用者の方の食事介助や入浴介助、知的障害者通所授産施設では、利用者の方と一緒に作業のお手伝いをしたりしているようです。

歯科の臨床実習では、各診療科で主に先生たちの診療の補助や見学を行っています。治療中のパキウム補助、セメント練和・除去、印象採得の補助、スケーリング、歯科外科的手術の見学等さまざまです。だいたい1～2週間で実習先の科を交代し全部で15の診療科を約10ヶ月かけてまわります。

私は4月から歯科の実習をずっと行っていますが、実習中特に感じたことは多職種との連携の大切さと体調管理です。一つ目については、多くの職種が働いている大学病院で実習をさせてもらっているからこそ強く感じました。しかしこのことは歯科だけに関わらず、どんな職種についてもさまざまな立場や職業、考え方の人と仕事をしていられないといけません。自分の価値観や方針をきちんと持ちつつ、かつ違った考え方をもっている人に対して柔軟な気持ちで対応できる人間になりたいと思いました。口腔生命福祉学科では、歯科衛生士と社会福祉士という二つの資格を取得する科だからこそどんな職場でもこのことを活かしていきたいと考えています。

二つ目は体調管理についてです。実習中、単に学校に行っていればいいというわけではなく日誌や授業のレポート、福祉実習の事前学習、事後レポートなどその他やらなくてはいけないことはたくさんあります。学校以外にもいろいろ用事はあるでしょう。そういった中でいかに自分の体調をコントロールしていけるか、というのはこれから社会人となったとき当然のことであり、おそらく今以上に大変なこともあるでしょうが、自分のペースをつかんでいかななくてはと感じました。

最後に大学生生活も残り半年となりましたが、ここで学んだことや経験させてもらったことは必ず役に立つと信じていますし、活かしていきたいと考えています。私たちの学科では将来さまざまな分野で活躍していくこととなるとは思いますが残りの大学生生活悔いのないよう過ごしていきたいです。

3年生だより

歯学科3年 小 暮 奈 実

私は今学校の図書館でこの原稿を書いています。タイトルは、『歯学部学生の今』。しかし、今はもう夏休みに入ってしまったため、今と言われても何を書いたらいいのか、ほんのつい最近まで悩んでいました。一体1,500字も何を書いたらいいのか。そこで仲の良い友達に相談したところ、「歯学部ニュースは保護者のところに送られるから、前期にこんな授業がありました、みたいなことを書けばいいんじゃない？ あと、3年生の前期のメインは解剖実習だからそのことについて書かなくちゃいけないと思う。」という、なんとも具体的で確かなアドバイスをもらったため、その通りに書いていこうと思います。

私たち3年生は前期の火曜日と木曜日に人体解剖学実習がありました。2年生の座学で習ったことを、実際に手で触れ、目で見ることができるとても貴重な経験ができる授業でした。やはり本で見たものより、実際に自分の目で見たほうが分かりやすかったし、より理解することができました。献体してくださった方々に感謝しています。しかし、解剖実習は勉強する内容が非常に多く予習復習が大変で、精神的にハードでした。ですが今思えば、もっと勉強すればよかったです。

解剖実習は班になって行い、それぞれの班にインストラクターの先生がついてくれました。私は1班で、先生は斉藤先生でした。斉藤先生はとても分かりやすく、勉強不足な私も含め、1班の面倒を非常によくみてくれました。解剖実習がすべて終わった後に1班でお疲れ様会をしました。そのときに1班のみんなで斉藤先生にプレゼントとメッセージを渡しました。先生が喜んでくれたのでとてもうれしかったです。斉藤先生、本当にありがとうございました。斉藤先生は歯学部ニュースの大ファンだとおっしゃられていたので、きっと私のこの文章も読んでくれることでしょう

……。実験でお忙しいそうですが、お元気ですか？

前期には他にも微生物学と生体機能学がありました。この2つが私の好きな科目だったのでこの2つについて書こうと思います。

微生物学は上松先生の授業で、3年生になってから初めて習いました。ちょうどこの頃、私は「もやしもん」という漫画が原作のゲームにはまっていて、クラスの友達と一緒に菌を用いてワインを造ったり、味噌を作ったりしていました。ゲームで出てきた菌が授業で出てきたりして勉強しやすかったのもあるし、比較的興味を持ちながら実験ができてよかったです。

生体機能学は体の働きや機能、システムに関する学問で、2年生の後期に授業がありました。また私は同じく2年生の後期にあった基礎科学演習という選択性の授業でも生体機能学を選んでいたので、親しい先生が多く授業が受けやすかったです。2年生の基礎科学演習のときは北川先生や山村先生がみかんをくれたりしました。ジャキール先生やラーマン先生は咀嚼の際に使用される筋の実験でおせんべいをくれたりしました。この間友達か北川先生にみかんについて伺ったところ、今は夏だからないと言われたそうです（笑）。

このような授業が前期にはありました。長かったようで、終わってみると前期もあつという間だったなあと思われます。歯学部生としての6年間のちょうど折り返し地点にいると思うと、時間の流れの速さに驚くばかりです。振り返ってみると、大変だったけどやっぱり楽しいことのほうがよかったです。残りの3年間半も振り返って楽しかった！と胸を張って言えるようにしたいです。あと、もっと勉強をがんばらなければとも思います。

『歯学部学生の今』。今は夏休みです。もうすぐディズニーランドに行く予定なので今はそれが楽しみです♡

4年生だより

歯学科4年 影山敬祐

今回、私のところに学級長殿から原稿が依頼されてきましたので4年生の学生生活について振り返ってみたいと思います。

まずは4年生の紹介です。4年生の人数は40人。男女比は大体半分。若干女子のほうが多目ですが皆、いがみ合いも無く仲良く学校生活を送っております。また、私は去年の3年次編入で入学してきましたので他大学工学部の学生経験がございます。あの若かりし頃の経験と新潟大学歯学部4年生の学生生活を比較し大きく違いを感じることは①女子が多い。(自分の友人であるS木君は良く「ええなあ」と言っております。)②皆真面目に勉強してる。(自分が二十歳頃には考えられないくらい。お恥ずかしい。)③歯科医師になる意識が高い。(歯学部に入っているから当たり前かもしれませんが、将来の自己像に対する意識がしっかりしていると思います。⇒自分が言うことでもないですが。)④本当にみんな仲がいい。(教室を見回すと皆笑っている感じです。)⑤草食系男子を装っている男子が多い。(がんばれ！)

④は書いていて自分が気持ち悪いですが、本当に4年生は仲が良くていいクラスだと思います。この学年になれて運がいいと感じることも多いです。歳が近い子が居るからなのか、なぜだかわかりませんがいいです。本当に。休み時間等で楽しい時間を過ごさせてもらっています。飲み会等でオヤジ落ち着けてと言われる時は多々ありますが気にしません。

次に学生の本題である勉学についてですが、4年生になると私が入学前にイメージを抱いていた歯科医師の仕事に関連する授業が増え、3年次よりもどの様な歯科医師になりたいのか、またなるべきなのか考えさせられる機会が多くなりました。私だけでなくクラスの皆もそう感じているだろうと思います。一週間の大まかな授業の流れと

しては月曜日から歯冠修復学の講義及び実習、火曜日は歯周病学・口腔病理学、水曜日は欠損補綴学の実習、木曜日は有床義歯学・予防歯科学、金曜日は成長発育学(小児歯科学・矯正歯科学)となっております。歯冠修復学ではインレー・クラウンの製作実習を行い、欠損補綴学では全部床義歯の製作実習を行いました。大まかな授業の流れから見てわかりますように、4年生になると毎日、歯科の仕事に直結する様な勉強を行っております。しかし、やはり皆が口を揃えて言う一言は「実習がキツイ」。実習は思うように手が動かなかったり段取りが悪かったりでなかなか自分が思うようにいかないことがあり、そこにキツサを感じているのだと思います。しかし、上手い出来ない事を乗り越えたときに面白さを感じるという点もあります。今は上手く出来なくても回数を重ねていけば、将来患者様に喜ばれるレベルの技術提供は出来るようになると考えながら実習を頑張っているつもりです。4年生は実習のある月曜と水曜に妙なストレスを感じている為、月曜と水曜の顔と木曜と金曜の顔は明らかに違います。水曜を過ぎるととても晴れやかな顔をしています。いい笑顔です。一番晴れやかなっているのは私かもしれませんが。

今は夏休み前で、夏休み明けには試験が待っています。夏休み中に試験勉強をしようと思うのですがなかなか出来ず、痛い目を見た去年の試験。今年は上手に時間を使って有意義な夏休みを過ごしたいと思います。そして、試験が終わったらクラスの皆でバーベキューでもしたいものです。バーベキューが終わったらまたあの辛く寂しい新潟の冬がやってきます。あの寂しい冬を上手く乗り切れるのか心配ですが、クラスの連中皆で無事に5年生になりポリクリに挑みたいと思います。雷に負けるな！ 頑張れ俺！

変な文章で申し訳ありませんでした。

5年生だより

歯学科5年 下 井 一 浩

こんな話を聞いた。

捜し物は、どうすれば見つかるのだろうか。チルチルとミチルは幸福の青い鳥を捜して夢の国へと旅立つ。いくつもの体験を重ねて家に帰り、夢からさめて、ふと気がつくと、家の鳥かごの中に、なんと、青いハトがうずくまっているのだ。「幸福の青い鳥なんて、わざわざ遠くまで捜しに行かなくても、すぐ近くにいるってことだよ」「ううん、そうじゃない。さんぞ苦労をして捜しまわったからこそ、身近に青い鳥がいることがわかったんだ。」捜し物はある日、突然に、見つかるかもしれない。毎日執拗に捜し続けなければならないかもしれない。

あなたの捜し物は何ですか？

新潟へやってきてはや5年、想像以上の冬の雪の厳しさで雪かきに追われる日々や日本海の潮風の強さなどに苦労しながらも、色々な体験をして新潟での生活にも慣れてきました。自分にとって新潟はもはや第2の故郷です。今回、学生の今ということで、自分がどのような日常を送っているかについて書いていきたいと思います。

5年生で今までの4年間と異なるカリキュラム内容でいうと、PBL・総合模型実習・ポリクリがあげられます。PBLは少人数で自発的に問題を見つけ出し、答えを調べて皆で考える討論型の学習です。普段の授業では受動的で右から左へ受け流してしまうこともあるが、PBLでは自分で調べたものを皆に発表するため、自分で学習したことを整理してまとめることで頭に入りやすいし、発表や他の人の意見のまとめ方を身につけるのに非常に有意義な学習だと思います。たまに知ったかぶって「そうだよね～」とかうなずいちゃってることがありますが。総合模型実習とは、1人の患者様の口腔内を想定し、治療の計画を立ててそれをもとに模型を利用して技能を身につけていく実習です。いわば今までの4年間の総復習ともいえる実習です。……てんでだめでした。個々の治療内容自体まず理解不足でうまく書けないし、そ

の上さらに全体を把握したうえで治療を行うことの難しさを感じ、準備に時間がかかってしまうなどの手際の悪さが浮き彫りになる実習でした。それでも、自分なりに毎回症状を確認してこの日までにこの内容は遂げるという目標を決めて進めていくことで、実際の臨床を以前より意識できる実習であったと思います。後期からは実際に患者様と触れ合っていくことになるので、残り僅かの学校での学習において先生に教わり少しでも吸収していきたいと思います。ポリクリに関しては次回それについて詳しく書いてくれる人がいるようなので、今回は省略したいと思います。

続いて学業以外での活動について。私は今バスケット部に所属しております。部活動は普通の大学では4年前半までが通常であり、6年制の大学でも5年生などはもう隠居もいいところの学年となります。そんな中現在の男子バスケット部の部員は7名、うち6年生2人・5年生3人。そうです、新鮮味がまるでないのです。それでも先輩との最後の夏のデンタルに向け、1勝でもできるよう、そして少しでも部員といい思い出を残せるよう蒸し暑い体育館の中日々頑張っております。(もうバスケット部がなくなるような書き方ですが、6年生が引退してもバスケットは5人いれば試合できるので、廃部にはなりません)他にも運動会であったり日本海でバーベキューをしたりと刺激的な毎日を送っています。

入学当初、自分から見た5年生はとても大人で頼れる存在にみえていました。そんな自分ももう5年生です。が、正直思い描いていたものとはかけ離れた状態になっているのが実際で、勉強することは山のようにあるし、プレのある精神面で辛いことから逃げようとしたりすることもしばしば。それでも、実習で注意されたことやこれから学んでいくことなどたくさんの失敗を積み重ね、それらが後々になってチルチルとミチルのようにかげえのないものであったと思えるように、残りわずかな学校生活を楽しみながら送っていきたいと思います。

6年生だより

歯学科6年 渋谷佳紀

歯学部に入學してから早いものでもう6年目に入り、僕は今最終学年としての生活を送っています。入學した時は6年という長さが非常に長いと感じましたが、今振り返ってみるとあっという間の充実した学校生活でした。今はもう少し学生生活を送りたいという気持ちと早く歯科医師としての人生をスタートさせたいという気持ちが半々です。

今現在僕は臨床実習中であり、今まで学んできたことを生かし毎日頑張っています。臨床実習は昨年の10月から始まりましたが、早いものでそれも終盤に入ってきています。実習が始まる前に先生方が、「この1年はあっという間に過ぎていきます」とおっしゃっていましたが、そのとおりだったと今身にしみて感じています。

先輩方から患者様を引き継いだけばかりのころは、これから1年間臨床実習をやっていけるのか不安な気持ちでいっぱいでした。今までと違い模型ではなく生身の人間を相手にするため、今までの模型実習のように失敗したからやり直せばいいというようにはいきませんし、患者様が痛みを感じないように配慮しなければなりません。また実習では、わからないことがあればその場で調べればなんとかなりますが、臨床実習ではそうもいきません。臨床予備実習で学生同士の相互実習は行いましたが、やはり友達同士で行うのと患者様に行うものは別物です。実際、患者様にやろうとすると今までの実習ではできていたこともうまくやることができずでした。そのたびに自分の未熟さ、勉強不足を痛感し、先生方にもたくさん

注意されましたが、その結果、今では臨床実習が始まったころよりも自分の技術が上達していていることを実感しています。つらかったこともたくさんありましたが、それ以上に楽しく充実した生活を送ることができたため、それも今ではいい思い出です。

このように学生主体の臨床実習を実施している歯学部は少なく、新潟大学歯学部はその数少ない中の1つです。そして実際に臨床実習を行ってきても、この環境にすることが非常に恵まれているということが分かり、新潟大学に入學して本当によかったと思っています。やはり見学しているだけよりも、自分で考えて自分で治療を進めていくほうが勉強になりますし、記憶にも残ります。また患者様の口の中は1人1人違うため、模型での実習と違い、より実践的な力を身につけることができます。他大学の人が、臨床研修が始まるから行うことを、学生のうちから行うことができるのは本当に幸せなことだと思います。しかし、このような実習が行うことができるのも、決して上手でもなく、時間もかかるにも関わらず、学生実習に協力してくださっている患者様方、そして、忙しい中、時に厳しく時に優しく熱心に指導してくださっている先生方があってこそです。このことに対して感謝の気持ちを忘れずに、残り少ない臨床実習を過ごしていきたいと思います。そして自分の知識と技術をさらに磨き、社会に貢献できる1人前の歯科医師になれるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

6年生だより

歯学科6年 廣川 佑

私が歯学部について思い出す事はまず部活を通して得るものが多かったことを思い出します。小学、中学、高校と通してバスケットボール部に所属していたので、大学でもその流れで所属することになりました。高校とのギャップに戸惑い、時には苛立つこともありましたが、同時に学ぶ事は多くありました。特に先輩方には色々な物の見方を教えて頂いたり、励まして頂いたりとお世話になりました。それは部活だけの話ではなく、大学の先輩の立場からの大学生活についてや、現在は御卒業なさっているので研修や研修後の進路について、それぞれの立場や経験を用いて、その時々考えた事や感じた事という貴重な言葉を頂きとても感謝しています。現在の部活では同級生や後輩とは、辛い練習を共にを行い、苦楽を共にすることにより、そうでなければ持ち得ない関係を築く事ができていると思います。スキー旅行や飲み会などは積極的に計画してもらったり、良い雰囲気でも活動できていると思います。私はサッカー部へ参加させてもらったこともあり、そこで出会えた先輩や同級生、後輩にも良い経験をさせてもらいました。歯学部の部活はそれぞれ仲が良く、他の部活へ遊びにいたり、また遊びに来たりというようなことができる関係は外から自分の部活を眺める事ができ、それを還元することにより、双方にとってスポーツとしても、人格形成としても、良

い刺激となっていると思います。

学外の活動に関しても、私は幸いにも他大学や社会人と一緒に活動するような機会を得る事ができ、その活動や仕事についての考え方、姿勢は各人で異なっており、価値観の違いを体感することができました。歯学部生として歯についても質問を受け、それに対して説明する場面もあり、口腔内衛生状況の改善を親しい友人からモチベーションを向上させようとする事は勉強になりました。

6年生といえば臨床実習ですが、治療の難しさについて体感しました。例を挙げるならば、支台歯形成に関しては、マネキンを用いて形成練習を行い、練習を積んで実際に治療に臨むのですが、マネキンの口とは違い、開口量が制限されていたり、軟組織の状態が異なっており、全く思った通りには形成できなかったことが特に印象にあります。先生方にはなるべくお世話にならないように、かつスムーズに診療を行おうと思いますが、自分の不甲斐なさ、悔しい思いを感じない時はありませんでした。そのような思いを無駄にしないよう、今後も努力を重ねていきたいと思っています。

学生生活はどのときも貴重な時間、経験であることを感じております。残された学生生活をより良い時間となるようにしていきたいと思っています。